
私に翼があるのなら

豆類

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私に翼があるのなら

【Nコード】

N6541N

【作者名】

豆類

【あらすじ】

語り部の伝承を耳にした少年は物語の主人公の様に空を見上げるようになった。

いつしか、空を見上げることは少年の生活の一部となり一度も休まれることなく10年もの月日が流れた。

明くる日のこと。いつもと違い夜空を見上げに来た時だった。暗黒の中に一点の光を見つけたのだ。

段々と近づいてくる光の正体は見目麗しい少女。だがある部位が通常とは異なっていた。

なんと少女の背には翼があったのである……。

捻くれ少年と不思議少女の冒険譚

そんな感じの物語

語り部の伝承

空、誰しもが一度は夢見る地上とは異なる別世界。

風は流れ、雲は行き、太陽が時節顔を出す。

季節折々の表情があり、見る者を飽きさせない壮大な魅力がある。

また、時刻が逆転すればその表情を一変させ、新たなる魅力へと引きずり込む魔性の美。

そんな幻美である空に惹かれた男は、ある時を境に空を毎日見上げるようになった。

朝、日が上らずまだ薄暗い時。

昼、灼熱の陽光が地を灼いている時。

夜、月光が森を照らし異形な生物のように見せる時。

雨の日も、

雪の日も、

雷鳴轟く梅雨の日も。

彼の休む日はなかった。

毎日、毎日、幾度も幾度も天高く広がる空を見上げる。

まるで何かにとり憑かれたかのように。

否、その様相は待ち人をただ迎えようとするかのように。

だが、彼を罵る声は日に日に増えていった。

狂人、と揶揄され

恐人、と恐れられ

凶人、と疎まれ

そんな彼はある日、唐突に姿を消した。

人々は困惑した。

野犬にでも食われたか、などと鎮魂の意も糞もない言葉をかける者もいたが大多数の人々は概ねそれに近い感情であった。

ある少年の一言を聞くまでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6541n/>

私に翼があるのなら

2011年10月7日22時59分発行